

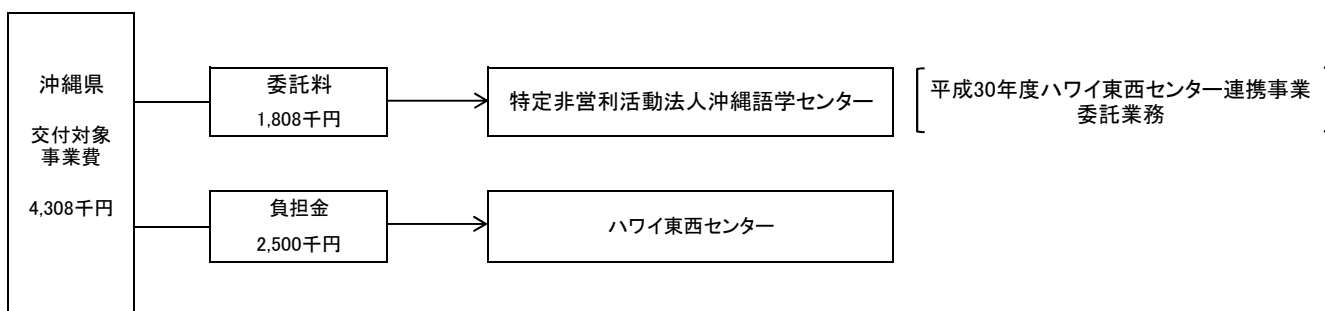
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10	ハワイ東西センター連携事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ア アジア・太平洋地域の共通課題に対する技術協力等の推進			
担当部課名	企画部 科学技術振興課	事業実施(予定)年度	H26 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7		
事業内容	グローバル社会や多様化・複雑化する社会ニーズに対応できる人材を育成するとともに、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、県内の社会人等をハワイ東西センターへ派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,385	—	4,385	—	4,385
		(b) 予算現額	4,385	—	4,385	—	4,385
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	0	—	0	—	0
		A. 計(b+d)	4,385	—	4,385	—	4,385
	B. 執行済額		4,383	—	4,328	—	4,308
		うち交付金充当額	3,506	—	3,462	—	3,446
		C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		99.95%	—	98.7%	—	98.2%
予算の状況の説明	・執行率は98.2%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	県内の社会人等を2名、ハワイ東西センター及びハワイ大学大学院へ派遣する	目標				2名派遣	
		実績				3名派遣	
	【H29以前の活動目標】 社会人等をハワイ東西センターへ2名派遣	目標	2名派遣	2名派遣	2名派遣		
実績		2名派遣	2名派遣	2名派遣			
達成状況説明	・H30年度は、小淵東西センター奨学金による派遣者2名のほか、アジア・太平洋リーダーシッププログラムによる派遣者1名の計3名の派遣を行い、目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(H26年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)
	ハワイ東西センターへの派遣 延64名(うち延30名をハワイ大大学院へ派遣)	目標	—	—	—	延64名派遣(うちハワイ大学大学院30名)	—
		実績	—	—	—	延64名派遣(うちハワイ大学大学院30名)	—
	【H29以前の成果目標】 ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合 85%以上	目標	—	50%以上	50%以上	—	—
		実績	—	100%	100%	—	—
	【R1成果目標】 ハワイ東西センターへの派遣 延65名(うち延31名をハワイ大大学院へ派遣)	目標					延65名派遣(うちハワイ大学大学院31名)
実績						—	
進捗状況説明	・ハワイ東西センターへ延64名(うちハワイ大学大学院へ延30名)の派遣を行い、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①小渚沖縄教育研究プログラムを継続的に実施していくため、ハワイ側と協力し、相互で留学に係る経費を確保するなどの信頼関係を構築していくことが重要である。 ②小渚沖縄教育研究プログラムに参加するためには、研究に関する専門的な知識と高い語学能力(英検1級程度)が求められている。	①留学に係る経費について、引き続き予算の確保に努める。 ②県内の大学や企業等と連携し、専門的な研究に関する知識と語学能力を兼ね備えた人材の確保に向けて、同プログラムの広報等に努める。
今後の取り組み方針		
「小渚沖縄教育研究プログラム」への参加を促すため、県内の大学や社会人を対象とした説明会の開催や企業訪問等によって同プログラムの内容や県からの財政支援措置に係る周知広報を強化し、語学能力を兼ね備えた研究人材の確保に努める。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
4,308	4,308	3,446	862	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募によるプロポーザル形式にて提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。 ○費用、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	227 国際性に富む人材育成留学事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア				
担当部署名	教育庁 県立学校教育課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	海外での異文化体験等を通して、国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成に資するため、高校生及び大学生等の留学費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】		H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	230,733		215,030		166,488
		(b) 予算現額	206,149		215,030		166,488
		(c) 増減額(b-a)	▲ 24,584	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—		—		
		A. 計(b+d)	206,149	0	215,030	0	166,488
	B. 執行済額		199,055		201,696		160,319
	うち交付金充当額		159,244		161,357		128,255
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.6%	#DIV/0!	93.8%	#DIV/0!	96.3%
予算の状況の説明		平成30年度予算執行率は96.3%であり、概ね計画的に執行できた。不用額の主な要因は、当初見込みと実績との差異によるもの (①予定段階の派遣先と人数が、決定段階と多少異なるため(英語テストの基準点等の影響) (②燃油サーチャージが見込みと多少差があり、例年並みであったため)					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	高校生85名を約1年間、アメリカ、欧州、アジア、南米諸国へ派遣。	目標	高校生70人	高校生75人	高校生75人	高校生85人	
		実績	高校生70人	高校生75人	高校生80人	高校生85人	
	大学生等については、H29事業までに派遣した修士課程3名、大学生17名の計20名のH30分の費用を補助。新規派遣は実施しない。	目標	—	—	—	修士課程3名 大学生17名	
実績		—	—	—	修士課程3名 大学生16名		
況達説明状	・平成30年度から高校生のみの派遣となり、高校生85名を海外20の国と地域へ派遣することができた。 ・大学生1名が、海外の大学合格が得られず派遣に至らなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(24年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)
	【H30成果目標】派遣者の国際的な視野が広がったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標	—	—	—	80%以上	—
		実績	—	—	—	高校生93% 大学生100%	—
	【H29以前の成果目標】(高校生)海外大学への進学や再度海外への留学を目指したいと考えている生徒の割合 85%以上(大学生等)留学での研修成果を今後の活動または現在の職に活かしていきたいと考えている者の割合85%以上	目標	—	高校生85%以上 大学生等85%以上	高校生85%以上 大学生等85%以上	—	—
		実績	—	高校生90% 大学生等100%	高校生89% 大学生等100%	—	—
	【H29以前の成果目標】ハワイ東西センターに派遣された社会人等についてコミュニケーション能力が向上したと実感できた者の割合85%	目標	—	50%以上	50%以上	—	—
		実績	—	100%	100%	—	—
	進捗状況説明	・年度を跨ぐ事業であり、平成30年度は、平成28・29年度に派遣され、平成30年度に帰国した派遣生へ帰国後のアンケートを行った。そのアンケートでは、高校生について「国際的な視野が広がった」と回答したものが、93.0%であった。選考試験内容について更なる語学力、積極性、目的意識の高さ、コミュニケーション能力を計る選考試験を実施する必要性がある。また、大学生等については振り返りからも派遣生全員が「派遣者の国際的な視野が広がった」と回答していた。 ・留学を経験した多くの派遣生が留学体験を肯定的に捉えており、今後の進路や活動に大きく影響を与えることが期待される。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①引き続き、派遣者が現地で生活する上で必要となることを事前に研修を通して学ぶ機会を設ける。コミュニケーションツールとしての外国語の習得や異国の地で異文化の中で生活していくため、ある程度、事前に異文化を理解しておく必要がある。(経験豊かな講師や過去の派遣生の活用により、事前研修が充実した内容となっている。)</p> <p>②引き続き、研修先において現地高校での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力、積極性の高い生徒を選考する必要がある。(選考試験にグループワークを取り入れることで派遣者の意識の向上に繋がった)</p> <p>③テロ等、世界各地で治安上の問題があり、研修先との連絡体制の構築が必要不可欠である。(企画提案書に明記させ、報告連絡相談の体制が図られている)</p>	<p>①事前研修等において、長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での長期生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生による体験談から生活習慣の違い等を学ばせていく。H29派遣生のH30帰国で得た事例を追加、時点修正して更なる充実を図る。</p> <p>②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施していく。(更なる派遣者の意識の向上を図る。)</p> <p>③外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、委託先の現地事務所等との連携が図れるよう、連絡体制を構築していく。(更に綿密な報告・連絡・相談体制の確立を図る。)</p>

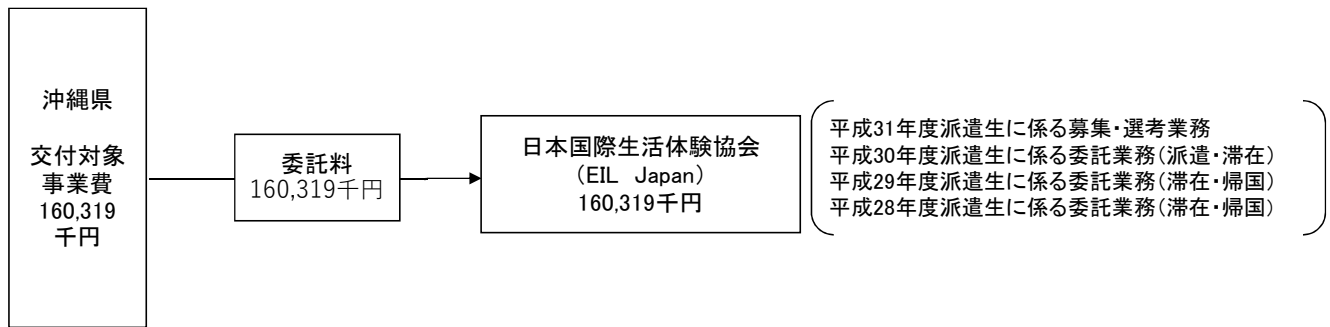
今後の取り組み方針

- ①事前研修においては、引き続き長期留学に向けての心構えや意識の向上を図り、コミュニケーション能力や異文化の中での生活について、経験豊かな講師や過去の派遣生の活用を実施し、2月の事前研修の場が、派遣者ひとりひとりにとっての模擬留学となるよう充実化を図る。
- ②英語力、積極性の高い生徒を選考するため、引き続き、事前課題を与えたり、選考試験においてグループワークを実施し、派遣者85名の意識の向上を図る。
- ③受託業者には現地での緊急時を含めた対応・体制について、6月のプロポーザル時の企画提案書へ明記させるとともに、実際の派遣時には綿密な報告・連絡・相談を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
160,319	160,319	128,255	32,064	0	0	0

(1)国際性に富む人材育成留学事業



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先については、公募によるプロポーザル形式で決定した。平成28・29年度派遣生の帰国に係る業務、平成30年度派遣生の派遣に係る業務、平成31年度派遣に向けての募集選考業務を行ったが、委託先がそれぞれ業務を円滑かつ確実に遂行した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

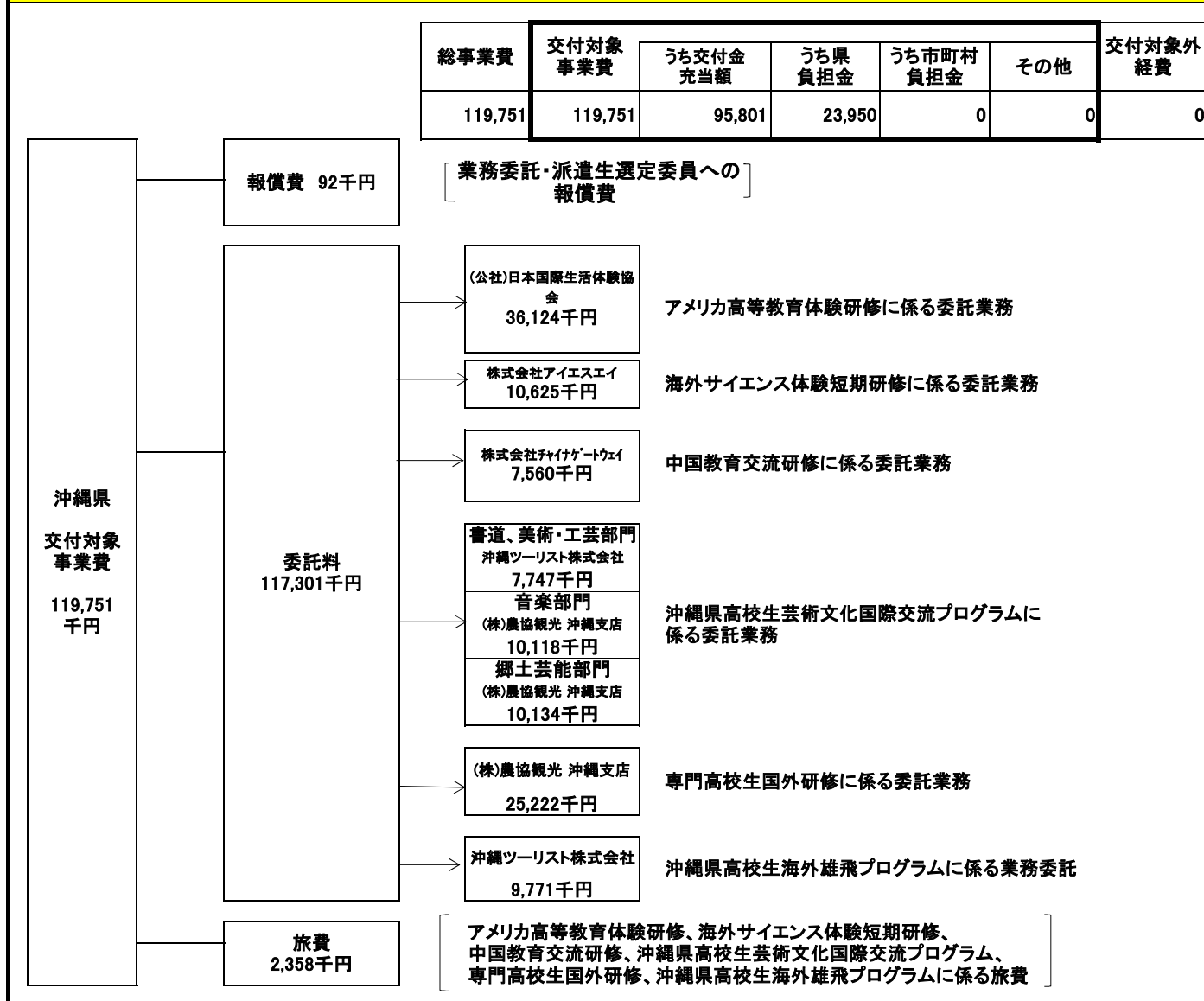
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	228	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア				
担当部課名	教育庁 県立学校教育課・文化財課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	海外での短期研修を体験させることで、国際的な視野を広げ、グローバルな人材を育成するため、高校生の留学費用を補助する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】			H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	121,194		121,194		119,984	
		(b) 予算現額	121,194		121,194		119,984	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	121,194	0	121,194	0	119,984	
	B. 執行済額		120,725		120,947		119,751	
	うち交付金充当額		96,580		96,757		95,801	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.6%	#DIV/0!	99.8%	#DIV/0!	99.8%	
予算の状況の説明		執行率が99.8%であったことから、概ね計画的に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	高校生の短期研修派遣者数 215人を派遣。 (派遣国数:6カ国及び地域(アメリカ、中国、カナダ、オーストラリア、台湾、ドイツ、ハワイ))		目標	240人	240人	234人	215人	
			実績	239人	240人	234人	215人	
			目標					
		実績						
達成状況説明		①アメリカ高等教育体験研修(40名) ②海外サイエンス体験短期研修(20名) ③中国教育交流研修(20名) ④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(70名) ⑤専門高校生国外研修(40名) ⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(25名) ※「国際性に富む人材育成留学事業」派遣生との合同成果報告会開催(H31.3.27 県庁4階講堂)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)	
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。		目標	-	-	-	80%以上	-
			実績	-	-	-	86.4%	-
	【H29以前の成果目標】 長期留学を目指したいと考えている生徒の割合→85%以上		目標	-	85%以上	85%以上	-	-
			実績	-	95.3%	96.0%	-	-
進捗状況説明		・派遣生の選考において、一次選考では英語能力資格等の実績を重視した書類選考、二次選考ではTOEFL等の活用や面接による積極性を図る試験を実施し、派遣生徒を決定した。 ・事前研修において、英語や中国語等の外国語講師を活用した研修や、前年度派遣生やファシリテーターによる異文化理解を深める研修を実施した。 ・各短期研修実施後に保護者アンケートを実施したところ、「生徒の国際的な視野がより広まった」等の回答が86.4%得られたことから達成できた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 ①引き続き、現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての英語力を身に付ける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。 ②引き続き、研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。 ③引き続き、海外研修による人材育成の取り組みを共有し周知するため、研修後の報告会等の実施をさらに推進する必要がある。 ④引き続き、委託業者が選考試験、事前事後研修、本研修に係る業務、現地での緊急対応、精算業務等を円滑に行えるよう、連絡調整を密に行う必要がある。	①事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ②実践的な英語コミュニケーション能力を測るため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を測る選考試験を実施する必要がある。 ③研修後に実施している各校での報告会、小中学校で実施している報告会(グローバル塾)を推進し、周知活動をさらに充実させる必要がある。 ④委託業務の円滑な実施や、外務省および大使館等からの海外渡航情報入手が迅速に行えるよう、委託業者や現地事務所等との連携を図る。

今後の取り組み方針
①現地研修をより深い学べへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施。 ②実践的な英語コミュニケーション能力を測る英作文試験や面接試験内容の構築。 ③校内報告会後の生徒アンケートの実施、小中学校と連携したグローバル塾の実施。 ④受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費用の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	